

家庭医の勉強会を開催

昨年12月2日、アメリカミシガン大学のマイクD.フェターズ准教授による日本では馴染みの薄い家庭医についての講義をしていただきました。



フェターズ教授は高校生の時期1年間日本へ留学した経験があり非常にわかりやすい日本語でお話をしていただきました。また、12月4日には、地域医療再生と高齢者医療と題し、三重大学名誉教授であり家庭医療学研究所理事長の津田司先生から、医療



を再生するためには家庭医の育成が必要であり、これからの家庭医の必要性について話をさせていただきました。

正月を迎える生け花を飾っていただきました



病院玄関に新年を迎える生け花を病院ボランティアかわせみの方々に飾っていただきました。また、ボランティア手作りの黄色の手袋で作った今年の干支であるかわいい虎の人形も飾っていただきました。



森町カンファレンスを開催

みんなで守り育てる地域医療

第20回森町カンファレンスを12月13日、森町文化会館小ホールで開催しました。自治医科大学の梶井英治教授を講師に迎え、利用者や町議会議員、役場、病院職員など約80名が参加。その講演内容をお知らせします。



医師不足と総合医

日本の医療の現状と課題を掲げ、高齢化社会になり複数の慢性疾患を持つ人が増えて、健康問題の変化が現れてきた。今までは医師の献身的努力によって医療需要に対応してきたが、医師の努力にも限界が生じてきている。医療需要に医師数が追いついていない。どんな相談にも応じるといふ姿勢を持った総合医が必要である。

医療資源の有効活用

少ない医師の中でより大きな力を出すには、それぞれ役割分担をした医療連携体制が必要である。メリット・デメリットはあるが、公的病院の連携・ネットワーク化が必要であり、それには地域住民との相互の信頼関係と理解・協力が大切である。

地域の医療を守り育む

それぞれの地域で活動されている団体の活動事例を挙げ、地域医療は病院医療者だけが作り上げるものではなく医療者、地域、行政、議員みんなで作り上げていくものである。



梶井先生は「医療の原点は『ひと』と『ひと』であり、医療はお互いの思いやりによって生まれ、人も物もお金は限りがあるが、地域の人達の力が集まれば大きな地域力となり地域が変わる原動力になる」とおっしゃっていました。